語箋

831
13
は
下

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

波下 八丹ラ

はのまり
はお
はせ
はすゞ

波部下

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

大正
216
東京

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

帝国図書館蔵書

八井 止 明治 昭和二十一

大正
4.2.15
購求

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

詞花後五　詞

大正
△五.15
寄贈

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

(バツ)

ちく　四加罷

ちし　四加罷

ちじ　四加罷

ちく　因五つらはらめ　出口上ノ九ニ一　四加四段ノ附

ちぐる　四加下二段　因二図

ちぐ、む　四ま四段

ちぐむまりつ　因十五ハグ、ムノ近 ハらり段ノ附

[写法経]二ノ三オ　ちくりみつけて見れば[illegible]をあつかるこれを
ちくまうつみ七八千枝ころちりこれをまのうけてるやらん
人もあとよびて

[志仁記]上九五丁　御霊合戦条　中ニモ哀覚エシハ十三四計ノ小児ノウスケセうニ
カ子黒ナルカ花ヤカナル目ナ見ニ褌ノソハ言ロクアケ金作ノ小太刀抜
テ畠山ノ先ニ進ミ政長ノ御方ニ志アラン人出合玉ヘ打物シテ
ミセ申サントる乗カケ出ル不ソ云フハ楠カ末葉ニ和田陽屋甲斐庄
トテノ河内ニ三人有リアノ小児ハ陽屋ノ二郎トる者ノ子也

バツヘラ
薜蔓　和十七ノ十三丁

百和香　和十一ノ十三丁

バツチス
鮊　和十二ノ十七丁

㡧額　和十二ノ十七丁

白犖丗　和十二ノ九丁

白青　和十三ノ二十丁

バツロメ
黒齵　和十三ノ[illegible]

ミ
薄　和十五ノ七丁

会飥　和十三ノ十五丁

ちぐさのまき　茅の稗　きさらぎ[illegible]
ちぐさこま

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

白楊暗のくらきの中
山ざとの
白魚のかごのうち
白妙の

庵丁刀 巻二四

白 羽織 上九五 巻三ノ五又五ウ

白 はく 皇茂 巻三ノ九

白馬通生治 文一七ウ

白馬節會奏 長三七九挿三

白鳳朱雀年号 長三九

白綾年号 茅ミニ

白紬黒帥 帥三七

白柳大櫓 俗九

白紙 俗六

白張 巻四ノ九ウ 如木ようにて下ろすもの

白魚美 巻三ノ廿五

白状 巻九ノ三八 巻十五ノ三八

白井光明寺 明ろくろく

白澤王 茅ノ二神獣形如馬退無兇也 洪也錄ノ紛格ノ 考古圖説ニ

博山炉 巻三ノ 四ノ又三ノ

博山夫炉 巻三ノ三ノ

白銅香炉 巻三ノ五ノ

白衣 長一八九 錦ノ三 上述覚ゆるもの

彰御装束 式一五三又一五五 裏武年中行事

幕下 幕下府 巻四ノ四

バクうま 巻十三ノ一九

博山 文一五四

博学人蓄迷居之詳也

狗 今百分

鉄 長四五 巻二ノ三三

黒 黒色 巻二ノ三五

黒祝 巻一下ノ三五

黒 俗六七

薄紙 茅百二

薄皇紙 文九

俗毋 和毋ノ下 文一二六又一四三

香濟国王仁先祖 上五六

羽車 松四ノ十五

羽車 松四ノ十五

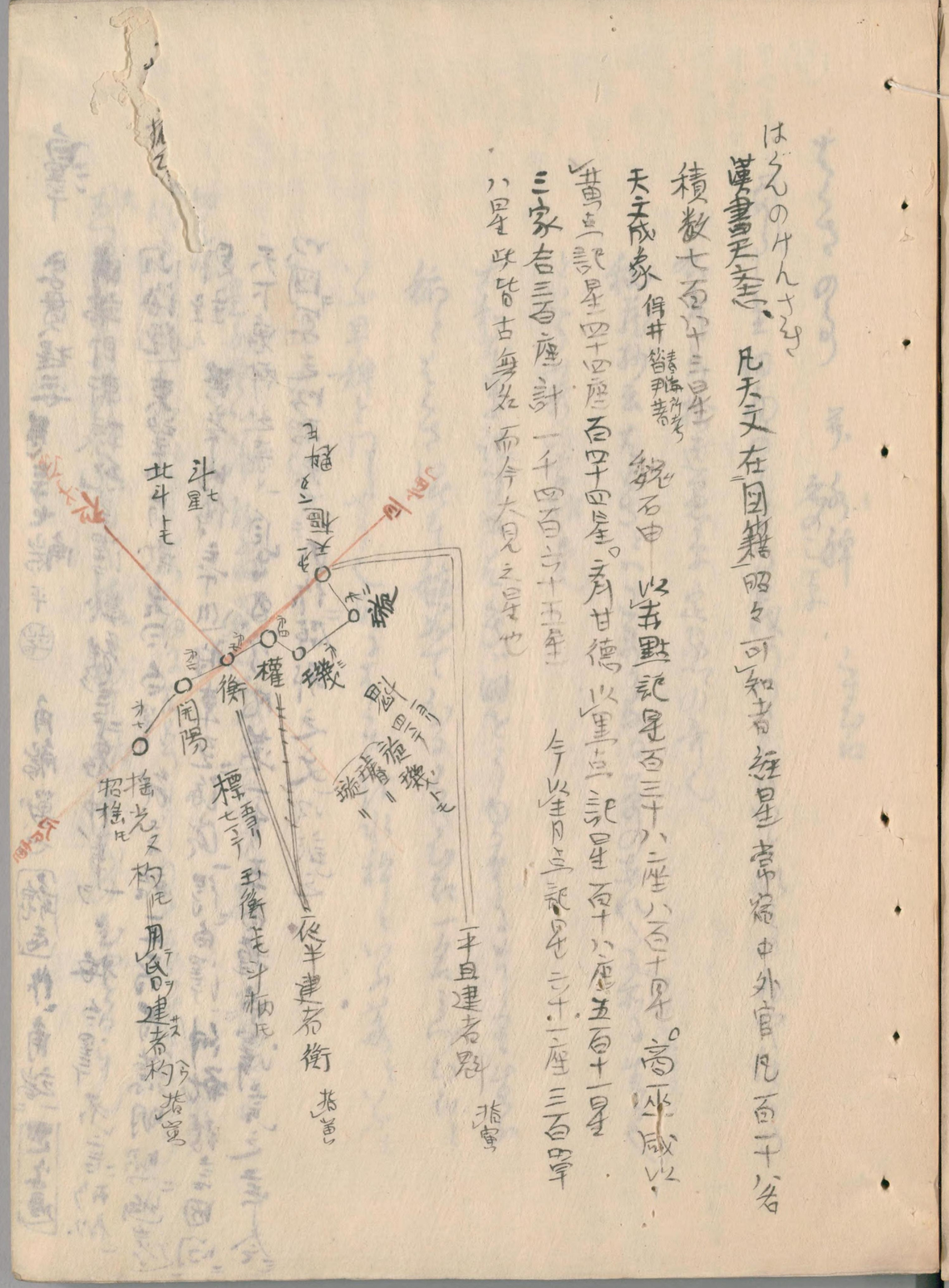
国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

はくのけんさる

漢書天志、凡天文在図籍昭々可知者経星常宿中外官凡百十八名
積数七百六十三星
天文成象 得井智海訳著

鉞石申 以告點記星百三十八座八百十星。高平咸以
黄点一記星四十四座百四十四星。秀甘徳以黒点一記星百十八座五百十一星
三家右三百座計一千四百六十五星
今以星月立記星三十二座三百章
八星以皆古名而今大見之星也



国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

𪊨 字彙補 巻三 千七 角觿 平 端 角觿獸也 魏志作角端 正字通

角端即軒轅紀白澤獸能言ニ鬼神ノ事ヲ・按白澤不言形似

山海経 東望山有獸名曰白澤能言語王者有徳明照幽遠ニ

則至ル 黄帝内傳帝巡狩東至海濱ニ得白澤神獣能言因問

天下鬼神之事ヲ 自是文字凡萬一千五百種白澤言之帝令

以図写之以示天下ニ 乃作辟邪之文以祝之

ちくさのはな 草 䅬 千種のこ草 くさぐさ

あしはら田面のちくさ茂りつゝのいとゆかしのおや侍らさ

たかき捨遺千種定家の哥

秋萩拾云ちくさといふこはある草のあれし花の生まし 池坊み 呉竹集

といふ草の字故也

大和本草記云ちくさは田をうゑし中に生ふ

稗とちくさ混を種として或はちくさ一名をいひとて

いふ早稗とゆかしこれはちくさ秋稗といふ草をいふ

ちくさのなと云て

万葉千之篇私曰思似而非者悪莠也乱苗也と云て

大 秋草が 植ゑしつめしやれちらん山田のちくさまじりにちろ生じる 伊勢

夫 風のとなえかのつてろく種にあて秋の風まつのまやするらん

早疾 ハヤ 速迅 ハヤ 捷 ハヤ 急使 ハヤ 駿馬ノ急 ハヤ 報書 ハヤガキ 早起 ハヤオキ

早稲 ハヤ 和ノ五ノ

鵲 ハヤサ 和十ノ四丁

旋花 ハヤヒトノサ 和十ノ十八丁 沢漆 ハヤヒトノサ 曲葉ニ

大戟 ハヤヒトノサ 和十ノ廿丁 蚰蜒 ハヤヒトノサ 和十ノ廿一丁

早苅のころほひの
稚苗のそよぎ出たる
早き秋のころ
美しき花の咲きたる
ころころとなく虫の
むらがりなく野辺
稲を掛けほしたるころ
雁の来鳴く頃
早稲の穂の出たる
早苅のころほひ

早疾 ハヤ 速迅 ハヤ 捷 ハヤ 急使 ハヤ 駿馬ノ急 ハヤ 報書 ハヤガキ 早起 ハヤオキ

早稲 ハヤ 和ノ五ノ

鵲 ハヤサ 和十ノ四丁

旋花 ハヤヒトノサ 和十ノ十八丁 沢漆 ハヤヒトノサ 曲葉ニ

大戟 ハヤヒトノサ 和十ノ廿丁 蚰蜒 ハヤヒトノサ 和十ノ廿一丁

早苅のころほひの
稚苗のそよぎ出たる
早き秋のころ
美しき花の咲きたる
ころころとなく虫の
むらがりなく野辺
稲を掛けほしたるころ
雁の来鳴く頃
早稲の穂の出たる
早苅のころほひ

早疾 ハヤ 速迅 ハヤ 捷 スハヤキ 急使 ハヤツカヒ 駿馬ノ急 ハヤ 報書 ハヤガキ 早起 ハヤオキ

早稲 ハヤ 和ノ五ノ

鵲 ハヤサ 和十ノ四丁

旋花 ハヤヒトノサ 和十ノ十八丁 沢漆 ハヤヒトノサ 曲葉ニ

大戟 ハヤヒトノサ 和十ノ廿丁 蚰蜒 ハヤヒトノサ 和十ノ廿一丁

早苅のころほひの
稚苗のそよぎ出たる
早き秋のころ
美しき花の咲きたる
ころころとなく虫の
むらがりなく野辺
稲を掛けほしたるころ
雁の来鳴く頃
早稲の穂の出たる
早苅のころほひ

早疾 ハヤ 速迅 ハヤ 捷 スハヤキ 急使 ハヤツカヒ 駿馬ノ急 ハヤ 報書 ハヤガキ 早起 ハヤオキ

早稲 ハヤ 和ノ五ノ

鵲 ハヤサ 和十ノ四丁

旋花 ハヤヒトノサ 和十ノ十八丁 沢漆 ハヤヒトノサ 曲葉ニ

大戟 ハヤヒトノサ 和十ノ廿丁 蚰蜒 ハヤヒトノサ 和十ノ廿一丁

早苅のころほひの
稚苗のそよぎ出たる
早き秋のころ
美しき花の咲きたる
ころころとなく虫の
むらがりなく野辺
稲を掛けほしたるころ
雁の来鳴く頃
早稲の穂の出たる
早苅のころほひ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

完矢ノ諸矢中ル　ハヤ

ちやうど　今七

ちやれうバノ方　慢四

早歌　今三百一

ハヤバシリカヒ　五十三ノ七

草人習ハ　義五十九

村道者　新

林住　副九二

ハヤスビ詞　副百九

流行正月　歌ヲ日記　五ノ三

流行言葉　後拾集　雑二　前中宮宮ヒ　始テ　明年公

お客ことのみ　ハヤ

ちやうど

ちやれうバノ方

早歌

林住

ハヤスビ詞

ちやうのす

剣ハヤ

ハヤ

ハヤ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

隼別の王子のみ
（記・書紀本紀）
柾手の宮に坐しも（マキモク）吾妻とみそなはされ
（ヤスムシロ）
右大勲勲を姓名の望めを兼ね
好きなる物語のみ
をもち思ひのひ給んと
めを付ひ作業をそのみ
吉備の雄鏑（ヲカブ）をそれなるみ
踊の山を廻り柏の陰に隠れ
山を祝んとそのみ
嶺辺なる山に物をそなるめく
八十山を越えをみと二人
めでこと給ふ作業の苗代（コモシロ）

早鳥歌のう

（八雲記）
かのらの大うもそくいことそおろ

古傳多林良我集ろそうまの

天皇御宇 此の歌を初めとして長歌短歌あまた多く載せたり

みし一巻の書う 今ま

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

濃 和ノ九丁
蜂蛉 和ナシ 六丁
蕨 勢撃 和ノ七丁
防風 和ノ七丁 典薬寮ノ本ニヨリ
天名精 和ノ七丁
雲實 和ノ七丁
葬花 和ノ九丁
言甲麻子 和ノ七丁 典薬寮ノ本ニヨリ
萱草荊 和ノ九丁

千載月ヲ施行ノ事ヲ嘆キテヨメルヲ世ノ常ヲヨミ侍ルヲ
いもと
やとれる
かりそめ
ありをみそのありをとおもふあまりをまもりたてしおれそへる

ガラス使用

駿河ノ國ノ濱辺ノ松ノ事

濱焼 景色ハウ

濱名橋 同社ノ芝

指渡ノ道十八丁

さてもくの人のつくりなせるものゝあるよりくちくさ
ぐさのハ万葉ノこゝろそのゝうつくしさにうたひ
たる人ゝこゝろ〳〵無名ノうたこゝろにうたひ
イクヘもヘメル草〳〵ト侍り但歌枕俗家侍るいと
伊国ノ無名浦ト思ひ侍事也こゝハ伊勢国ノミ
イヘリクキニウケたゝハリオキクカサナリテウスクも
モこゝへたレトヨメリ大體ノ片ハ鳥ノアレハムトテ
ハセヒハノやうな草ゝ艶景カノモノゝ思ヨト叶
紀伊ヨトオモヘ此ノ伊勢ニたゝ有ノ事ゝ大
可然事七ト私ニハイトモヲカシ侍事〳〵

濱ゲ 毛氈ノナウ ハヘコロ
濱ユフ ふるハ
濱久久 ハヘオモト。ハヘハセウ
ハヘらし 濱松ノ

濱、囲基ニ
石碁ノ上ノ九十ウ
又囲碁ノ中ニ
穴ヲキスルヲ云

ハヘ ハヘユカ 文一ウ八 歌意
金ヲハセウ又ハヘオ
破魔弓 小百八足一下ノ十九又廿、春草、

五島四 碁盤上ノ九十ウ

弥凡之伊勢乃濱萩 折伏 家前也 荒屋ノ事

弥凡の松原 枕詞 萩 枕詞 これも濱なれハ

枕詞 弥凡之 ゝもしるし 童蒙 綺語 妄語 おホ形

童蒙おゝ濱萩とそ 釣せよ 草をゝ

檀越 伊勢乃濱萩 折伏 家前也 荒屋ノ事

カムカセノイセノハマヲキヲリフセテ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

廿二ウ 花七ノ五一ウ 春草 キミ 破魔ニアラネ的ノ名ヨリ
廿三 投 花七ノ五オ
廿四 矢 花七ノ五ニオ
廿五ヒヤシ 雪集 俊頼 ちるそ 陸奥ノ塩ノセキシ
廿六ヒサキ 五土 ミ 波間往 ちるそ 水ノ泡 久末 久シクちりはてゝあらせて
常ノ秋 潮風ニ堪ヘキモノニアラネハ 浜ノ真砂ノ久シク後ニ イツサキ
トモモノミテ海浜ニ生テ秋ニ似タモノシ此末ノ世ヲモ 木モ枯 桐ニ似タ由ヨリ葉ノ
陣人ノ銭 桐ト云 異国 写信ニイツサキ 世ヲ
ウツシ 光リ 碧桐ノ葉ヨリウスシ 初生テミ
刈テ河水ニ浸シ ハシ訓ハサラノ如ク白ニ ヨリ
絲トス麻苧ヨリ用ルカ如シ ワロシ 毎年メル
桐ト云 葉ノ ヨリ此ニツアリ又苗シ如ク 高
新芽リ俊頼 君コフトたにノ浜久末シ

ちるそ 浜久末
指遣亜四字下
ちりはてゝあらせの 雪ノ如ク
右浜ひさしといふ説を浜ヨリある答底をそ
ちるそ ひさしといふ 例ヲ見ス ちるそ
右ノ 詞ハ無 世ノ 附言ニ 浜ひさし
ちるそ ヒサキ ヒサキナシ ハヤリノヒサシ トヨミアヤマリしなんへし
廿三ノ注 久末亜
浜ひさしある 答底ヨリ
浜ひさしと云 説ハ 久シクちりはてゝあらせ
世ヲモ 木モ枯 桐ニ似タ由ヨリ葉ノ
陣人ノ銭 桐ト云 異国 写信ニイツサキ 世ヲ
ウツシ 光リ 碧桐ノ葉ヨリウスシ 初生テミ
刈テ河水ニ浸シ ハシ訓ハサラノ如ク白ニ ヨリ
絲トス麻苧ヨリ用ルカ如シ ワロシ 毎年メル
桐ト云 葉ノ ヨリ此ニツアリ又苗シ如ク 高
新芽リ俊頼 君コフトたにノ浜久末シ
廿四 指遣亜四 夫発士 陽 人々集
陸奥ノ塩ノセキシ 妹 陽
陸奥ノ塩ノセキシ 指そ
浜ひさしといふ説を浜ヨリある答底をそ
ちるそ ひさしといふ 例ヲ見ス ちるそ
右ノ 詞ハ無 世ノ 附言ニ 浜ひさし
ちるそ ヒサキ ヒサキナシ ハヤリノヒサシ トヨミアヤマリしなんへし
廿三ノ注 久末亜
浜ひさしある 答底ヨリ
浜ひさしと云 説ハ 久シクちりはてゝあらせ
世ヲモ 木モ枯 桐ニ似タ由ヨリ葉ノ
陣人ノ銭 桐ト云 異国 写信ニイツサキ 世ヲ
ウツシ 光リ 碧桐ノ葉ヨリウスシ 初生テミ
刈テ河水ニ浸シ ハシ訓ハサラノ如ク白ニ ヨリ
絲トス麻苧ヨリ用ルカ如シ ワロシ 毎年メル
桐ト云 葉ノ ヨリ此ニツアリ又苗シ如ク 高
新芽リ俊頼 君コフトたにノ浜久末シ

ちるそ 浜久末
指遣亜四字下
ちりはてゝあらせの 雪ノ如ク
右浜ひさしといふ説を浜ヨリある答底をそ
ちるそ ひさしといふ 例ヲ見ス ちるそ
右ノ 詞ハ無 世ノ 附言ニ 浜ひさし
ちるそ ヒサキ ヒサキナシ ハヤリノヒサシ トヨミアヤマリしなんへし
廿三ノ注 久末亜
浜ひさしある 答底ヨリ
浜ひさしと云 説ハ 久シクちりはてゝあらせ
世ヲモ 木モ枯 桐ニ似タ由ヨリ葉ノ
陣人ノ銭 桐ト云 異国 写信ニイツサキ 世ヲ
ウツシ 光リ 碧桐ノ葉ヨリウスシ 初生テミ
刈テ河水ニ浸シ ハシ訓ハサラノ如ク白ニ ヨリ
絲トス麻苧ヨリ用ルカ如シ ワロシ 毎年メル
桐ト云 葉ノ ヨリ此ニツアリ又苗シ如ク 高
新芽リ俊頼 君コフトたにノ浜久末シ
廿四 指遣亜四 夫発士 陽 人々集
陸奥ノ塩ノセキシ 妹 陽
陸奥ノ塩ノセキシ 指そ
浜ひさしといふ説を浜ヨリある答底をそ
ちるそ ひさしといふ 例ヲ見ス ちるそ
右ノ 詞ハ無 世ノ 附言ニ 浜ひさし
ちるそ ヒサキ ヒサキナシ ハヤリノヒサシ トヨミアヤマリしなんへし
廿三ノ注 久末亜
浜ひさしある 答底ヨリ
浜ひさしと云 説ハ 久シクちりはてゝあらせ
世ヲモ 木モ枯 桐ニ似タ由ヨリ葉ノ
陣人ノ銭 桐ト云 異国 写信ニイツサキ 世ヲ
ウツシ 光リ 碧桐ノ葉ヨリウスシ 初生テミ
刈テ河水ニ浸シ ハシ訓ハサラノ如ク白ニ ヨリ
絲トス麻苧ヨリ用ルカ如シ ワロシ 毎年メル
桐ト云 葉ノ ヨリ此ニツアリ又苗シ如ク 高
新芽リ俊頼 君コフトたにノ浜久末シ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

はけそう　圓ふうこちはけまを
ハカセノ約ハ加下二ヨノ所
はげまる　四左四ヨ
はげむ　四まそん

髪多筆　和十五ノセ丁

励　ハゲム　勉ハゲミ　激ハゲシ　烈ハゲシ　厲ハゲム　勵ハゲム　妖ハゲシ　化ハケ　脱ハゲ　もしくは　元ハゲの山ハゲの

注ハゲム　精励　属ハゲム　学ハゲム　永注ハゲム　屋ハゲ　百ハゲ　一瞬ハゲム　信ハゲ　二十三ノ六　六ノ元　奨ハゲム　文慶　激ハゲシ　史記

徴人ノ肉ノ遠ハゲ

字治拾遺ノ文をけうるところなをぬうつくしく

髪多筆　ヨ一ノ百四十ウ

馬ハゲ鞭　文三一

ばけそんしうる狐　徒下九十四ヨ
妖ケモノ物　徒下九四ヨ　燭ケモノ物　源平盛衰記十六ノ十五オ又ウ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

(六)

[illegible]四加四倍
[illegible]四去四倍固
[illegible]四去四倍固[illegible]者
[illegible]四はr倍
[illegible]四倍下二倍 固十六倍固文
[illegible]四ら[illegible]倍
[illegible]四ら[illegible]倍
[illegible]四ら[illegible]倍

[illegible]和ノ声
[illegible]青翰 赤犬ノ大ナル
[illegible]牧羊 羊ノ大ナル
[illegible]白粉 和香ノ土ニテ

・左ニ[illegible]ものから記凡のそうなるなどこの字あり

蚊虫ノ 蚤 蝨 蠅 蚋 蚓 蛭 蛇 蚖 蝮 蠍 蜈蚣 蜘蛛 蟻 蜂 蜜蜂 蜻蛉 蝶 蛾 蛍 蝉 蜩 螗蜋 蟋蟀 蚯蚓 蝸牛 蛞蝓 蛤蚧 蝦蟇 蝌蚪 蠑螈 蛙 蛇 蛟 蝮蛇 蝙蝠 鼠 鼬 鼹鼠 鼯鼠 鼷鼠 鼸鼠 鼴鼠 鼺鼠 鼻鼠 鼼鼠 鼽鼠 鼾鼠 鼿鼠 齁鼠 齂鼠 齃鼠 齄鼠 齅鼠 齆鼠 齇鼠 齈鼠 齉鼠 齊鼠 齋鼠 齌鼠 齍鼠 齎鼠 齏鼠 齐鼠 齑鼠 齒鼠 齓鼠 齔鼠 齕鼠 齖鼠 齗鼠 齘鼠 齙鼠 齚鼠 齛鼠 齜鼠 齝鼠 齞鼠 齟鼠 齠鼠 齡鼠 齢鼠 齣鼠 齤鼠 齥鼠 齦鼠 齧鼠 齨鼠 齩鼠 齪鼠 齫鼠 齬鼠 齭鼠 齮鼠 齯鼠 齰鼠 齱鼠 齲鼠 齳鼠 齴鼠 齵鼠 齶鼠 齷鼠 齸鼠 齹鼠 齺鼠 齻鼠 齼鼠 齽鼠 齾鼠 齿鼠 龀鼠 龁鼠 龂鼠 龃鼠 龄鼠 龅鼠 龆鼠 龇鼠 龈鼠 龉鼠 龊鼠 龋鼠 龌鼠 龍鼠 龎鼠 龏鼠 龐鼠 龑鼠 龒鼠 龓鼠 龔鼠 龕鼠 龖鼠 龗鼠 龘鼠 龙鼠 龚鼠 龛鼠 龜鼠 龝鼠 龞鼠 龟鼠 龠鼠 龡鼠 龢鼠 龣鼠 龤鼠 龥鼠 龦鼠 龧鼠 龨鼠 龩鼠 龪鼠 龫鼠 龬鼠 龭鼠 龮鼠 龯鼠 龰鼠 龱鼠 龲鼠 龳鼠 龴鼠 龵鼠 龶鼠 龷鼠 龸鼠 龹鼠 龺鼠 龻鼠 龼鼠 龽鼠 龾鼠 龿鼠 鿀鼠 鿁鼠 鿂鼠 鿃鼠 鿄鼠 鿅鼠 鿆鼠 鿇鼠 鿈鼠 鿉鼠 鿊鼠 鿋鼠 鿌鼠 鿍鼠 鿎鼠 鿏鼠 鿐鼠 鿑鼠 鿒鼠 鿓鼠 鿔鼠 鿕鼠 鿖鼠 鿗鼠 鿘鼠 鿙鼠 鿚鼠 鿛鼠 鿜鼠 鿝鼠 鿞鼠 鿟鼠 鿠鼠 鿡鼠 鿢鼠 鿣鼠 鿤鼠 鿥鼠 鿦鼠 鿧鼠 鿨鼠 鿩鼠 鿪鼠 鿫鼠 鿬鼠 鿭鼠 鿮鼠 鿯鼠 鿰鼠 鿱鼠 鿲鼠 鿳鼠 鿴鼠 鿵鼠 鿶鼠 鿷鼠 鿸鼠 鿹鼠 鿺鼠 鿻鼠 鿼鼠 鿽鼠 鿾鼠 鿿鼠 虫ノ 蚤 蝨 蠅 蚋 蚓 蛭 蛇 蚖 蝮 蠍 蜈蚣 蜘蛛 蟻 蜂 蜜蜂 蜻蛉 蝶 蛾 蛍 蝉 蜩 螗蜋 蟋蟀 蚯蚓 蝸牛 蛞蝓 蛤蚧 蝦蟇 蝌蚪 蠑螈 蛙 蛇 蛟 蝮蛇 蝙蝠 鼠 鼬 鼹鼠 鼯鼠 鼷鼠 鼸鼠 鼴鼠 鼺鼠 鼻鼠 鼼鼠 鼽鼠 鼾鼠 鼿鼠 齁鼠 齂鼠 齃鼠 齄鼠 齅鼠 齆鼠 齇鼠 齈鼠 齉鼠 齊鼠 齋鼠 齌鼠 齍鼠 齎鼠 齏鼠 齐鼠 齑鼠 齒鼠 齓鼠 齔鼠 齕鼠 齖鼠 齗鼠 齘鼠 齙鼠 齚鼠 齛鼠 齜鼠 齝鼠 齞鼠 齟鼠 齠鼠 齡鼠 齢鼠 齣鼠 齤鼠 齥鼠 齦鼠 齧鼠 齨鼠 齩鼠 齪鼠 齫鼠 齬鼠 齭鼠 齮鼠 齯鼠 齰鼠 齱鼠 齲鼠 齳鼠 齴鼠 齵鼠 齶鼠 齷鼠 齸鼠 齹鼠 齺鼠 齻鼠 齼鼠 齽鼠 齾鼠 齿鼠 龀鼠 龁鼠 龂鼠 龃鼠 龄鼠 龅鼠 龆鼠 龇鼠 龈鼠 龉鼠 龊鼠 龋鼠 龌鼠 龍鼠 龎鼠 龏鼠 龐鼠 龑鼠 龒鼠 龓鼠 龔鼠 龕鼠 龖鼠 龗鼠 龘鼠 龙鼠 龚鼠 龛鼠 龜鼠 龝鼠 龞鼠 龟鼠 龠鼠 龡鼠 龢鼠 龣鼠 龤鼠 龥鼠 龦鼠 龧鼠 龨鼠 龩鼠 龪鼠 龫鼠 龬鼠 龭鼠 龮鼠 龯鼠 龰鼠 龱鼠 龲鼠 龳鼠 龴鼠 龵鼠 龶鼠 龷鼠 龸鼠 龹鼠 龺鼠 龻鼠 龼鼠 龽鼠 龾鼠 龿鼠 鿀鼠 鿁鼠 鿂鼠 鿃鼠 鿄鼠 鿅鼠 鿆鼠 鿇鼠 鿈鼠 鿉鼠 鿊鼠 鿋鼠 鿌鼠 鿍鼠 鿎鼠 鿏鼠 鿐鼠 鿑鼠 鿒鼠 鿓鼠 鿔鼠 鿕鼠 鿖鼠 鿗鼠 鿘鼠 鿙鼠 鿚鼠 鿛鼠 鿜鼠 鿝鼠 鿞鼠 鿟鼠 鿠鼠 鿡鼠 鿢鼠 鿣鼠 鿤鼠 鿥鼠 鿦鼠 鿧鼠 鿨鼠 鿩鼠 鿪鼠 鿫鼠 鿬鼠 鿭鼠 鿮鼠 鿯鼠 鿰鼠 鿱鼠 鿲鼠 鿳鼠 鿴鼠 鿵鼠 鿶鼠 鿷鼠 鿸鼠 鿹鼠 鿺鼠 鿻鼠 鿼鼠 鿽鼠 鿾鼠 鿿鼠 物ノ 省 法式 這ノ体 ○ハブトヲ虫ノ字 秦 李斯所製 或云後漢王次仲 創之或云 蔡邕 永八佈之後又

ハブトヲ虫 後十 上九四

分此條ノ故ニ 詳代酔

分 後ノ説ニノセヲ安ヲ 南窗

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

はふれ 文三ろ

はふ子 巻ハノ十三 位二六五 ハ四調五 遠十巻二ノ五
傍通遠ヌ

法師が男カト問ヒ答 往六十
法しも出没 新

法親王 巻七ノ三 玉陽号四ノ廿三 北ふ物がたり 入道殿ヒたり
法親王ノ始 玉カ号四ノ廿三 統古結 覚行法親王始テ法体ノ後 親王ト申ス

ほうし 巻ニノ二六

(今)

ちごぶ四位少将
たこくまろ いら下部へ
箱 四十六ノ十三

○箱鳥 男重 条る 老後ノ
ふくとこそ ともあるちん 四 さべとうくをあるるを
たこくまろの ゆそくやうの
箱 四十六ノ十三 ちふくとこそ
おろる人七ていなくる 表

知ふ計ア てそこおきくるやるとて おそう人ヲ
(長ツるもあるよそよそよる男カ)

相模 ちりそきこそいこを人のおそろきもをめ
の許へやることてよおをて
ちりそきこそいこを人のおそろきもをめ
よのれよこのあも
うの新
にの新
ふこるよ

運ブ 青ハ 学ハ

箸 ゟ二ノ七十九オ 片廂ゟ八

箱ノ上書竪横 ゟ九ノ十八

箱ノ緒結様 ゟ十三ノ十七 徒九十

箱ノ紙結順逆 ゟ、十二ノ廿一図ゟ

箱ノ緒所様 在九十四 文箱ハ左ニツノ手箱ハ右ニツ

箱形 ゟ十三ノ十四ゟ 杜若ノ文心 ◇ノ内定リ名ニツ

箱瓶 ゟ二ノ七十オ

ハコヒノ寸法 袍ニ連辞百十八ノ二

はこれる袍ノ腰ノタタリニアリ 汲戸衣 服色図解 袍ノ後腰ニツ

はこする 帆七ノ廿六 紅梅の袍 白きあとひきはこれるをのこ

こひさはこれいうぶえ こえ物 物ニひきて九ぎいうぶトアレド

カノ袍ノ腰ノ切リ筥ノ切リフタラムルヲヲルベシ

箸 ドヒ 姓ノ条ノ ゟつまおしう

箱庭 蛭附十三ウ 石菖ノ鉢

筐物 白楊ノはこやの木 ねぶノ廿五

箱折 ゟ二ノ七ニウ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

【雲宮左右集】秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ

【類題】【玉葉】秋下　宮内卿

ころもでは山田のいほにかけてこそ

果（ハテ）　終（ハテ）　葉手（ハデ）

なて　日一四七　服の飾品など

馬蹄硯　品ノ若干ニアリ

ハテノゴハン　果の御飯　松ノ木ヲ

四提便　飯明礼ニテ膳具ヲ提便ニ入レ運ビ来ル事ヲ得四提便ト云ヒシトカヤ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

（八ウ）

飛蝗（バッタ）　和名九ノ十四ウ

バッタニテ山地ノアヤスシ　四月草集上　㊟下ノ餐考

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ハサ

はさむ 因まゆみ

はさまる いはら(?)

鋏刀 ハサミ 和名十三ノ 又和十五ノ八ノ

因名 七夕へ天の川をしたりてをりてきつの寿きさきのふる[illegible]

因 [illegible]

[illegible] 廿五

はさまる

鬪 [illegible] 夾 [illegible] 挾 [illegible]

挾特某 挾[illegible]日記一ノ廿さう

ハサ	がサウ	貞三ノ三	鋏子	類聚下五四ノ 又三[illegible]四ノ	前刀 同一ノ四一ら
挾板	川ノ両方ノ袖ニ云[illegible] 貞吉ノ廿九 東鑑三十八	はさみ 挾形	駆光 下十八	[illegible]差二解 ろ十二下ノ廿一	
挾箱	挾竹	今[illegible]七一貞ハノ十 娃五ノ廿五	甲陽軍鑑廿 和漢三才図会 老人雑話	鋏刀	三ノ廿三
挾箱	緒結様	貞十三ノ十九			
挾物	浸さて	貞十三ノ十八			

はさみ 発心集下廿五 はさみをとりて このかみをそりおとしつ

あて ちこのうしろへをしてはさみ[illegible]

ハア

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

馬琴 東海道勇者 三編 五ノ三五ノ八　戯作者略伝 平三丁 柳文輯宛 ノ落毛待歌
萩、従十九大成三ノ十ウ　青砥ノ事ニ附ク

萩の花　餌ニ六ノ二
萩の戸　夢秋上十二オ
樓薊摺　舶三ノ八
腰ニアゲテ　土左上卅八
佩太刀　ろナニノサ
帶剣　平治物語　判官物語
馬琴ノ由来　早稲田文学　乃十九号第

萩もちもちのろ　分　萩の葉のもちのろ
ちりのあるの
後拾遺　秋上　ろきうるゆりのろうられめれぬうつ
ほト十三ウ
右袖中歌云　萩ろ色もちをハ作
こころもとせんやきんこもや　ろうきあいかいに
ヤナろんろもや

ろろろあ云
五十卅四ウ　松
ろうきあいせろうそそろ四のみくれ　めへ
萩のもきぬようろうろ正ろうろ
ろろろそ時の人ろひろう作ろそ
七ノ十四ウ
ナりろろや又萩ろそ
五七卅四ウ
ろろ世代のもの萩ろ
云ろちり
ろろ

萩の花　餌ニ六ノ二
萩の戸　夢秋上十二オ
樓薊摺　舶三ノ八
腰ニアゲテ　土左上卅八
佩太刀　ろナニノサ
帶剣　平治物語　判官物語
馬琴ノ由来　早稲田文学　乃十九号第

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

倭名抄云萩の花をもて衣をすること
万葉抄云万葉集の萩の字ハ木の名なれハ 今案ニ 秋大
萩ト見えたる古枝にも用ゐるにや 萩とも以之榛ノ字用之 萩の
字ハ小萩也 但万葉ニハ皆以榛字用之 さの頭 さいまくりニ書とり書ス 榛ハりくさの之
顕昭云 予按ずるに 木萩とて古枝を咲萩をもとあり
木萩とハ木立の萩ハ古枝に咲ものなり 倭名抄云
萩来めとまうすあへまにかれて なかにもまたまつ萩原
是ハ時にあはぬやうなれとまつ萩といへるとあるにハ 如此詠也
其まつ萩もて衣にすること 但此ハ萩なりと
得ぬること
ヨモノナミウ 月よりのさと里をのへに榛かきてかたの衣のさうりたれ
ワカナノサニオ 思ふこの衣きらんに自ひせよ咲の榛原あきのにほひて

ひくさ地に白き榛原ひとける衣なるへし 様の気にて
今云は地をすりて 榛字をかき皆衣きるとあり 又此作る
集云の名に秘説あり 春夏ハ萩の葉のすりやとこそ
秋冬ハ萩の花すりとも云 これを秘説なりと
にて 地にして萩の花すりとかくなるへし 彼の縄張の風俗
「いろいろのつまくれ」の花なれハ花すりてかさねる衣なるものつまくれ」
とあるを秘説とて春夏ハめくらしを 秋冬ハ萩すりをも見
あるいろいろのつまくれ」ということなめし 但萩衣云なり
本 いろのつまの花のすれハかさねて見よや いろのつまくれ
末 つまくれのせなやせなれハ見ても見るなそのつまくれ
めい説ハ時にいとさかしらにてすきるめいしなん はし地ニ書
催馬楽更衣の哥に秋説とて春夏ハ萩の花のすりやと注之由

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13
ガラス使用

書り杯 萩の葉ゆ ふるとなく 傳ふ雫も まれに音
多き夜半の ふる雨に 萩の葉ごとに 玉ぞ散る
夜ふるの 雨降る時の 詠ふ歌
左右の人 判者と 何と 詠ふ歌 一首
それぞ 歌あるべき

もう 半のう
第二 萩ごのうちのう
(五)
引馬 野 仁保 荷持 人 乱 衣手 仁保 降 物乍 鳥 鳴 初冬 朝
不時 班 衣服 改 衣服 新 着時 二 家 妹 見 如 吉 毛
(五十四)
伊可保 乃 萩 比 乃 降 里 降 良 牟 人 乃 云 比 未
故 意 旅 衣 毛 故 等

右 様 古 を 万 葉 乃 人 々 と 引 ふ
日 本 の 文 ふる 時 年 の 歌 ふ
歌 ふ て 実 趣 ふ を 夜 雨 ふ と
春 ふ ると 詠 ふ て 萩 と 思 ふ 詠 ふ る 歌 ふ
を 人 栄 ふ と 雁 ふ 来 ふ と 詠 ふ
既 に 針 ふ 降 ふ と 様 ふ の 萩 ふ
ふ を 知 ふ

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13
ガラス使用

古事記 其猪怒而宇多岐依來 故天皇畏其宇多岐
登座榛木上 爾歌曰 和賀爾宜 能煩理斯 阿理袁能 波理
能紀能延陀云々 これにて榛ハ萩にあらざる事明
らかなり 国語後紀云 ……二ッ手榛を萩と
榛ハはりの木とて葉を摺るはんの木とす それをときてハ
此の木とハいふことを思ひしを誤せるなり 岩田川えびのあ
よりて多き物にて染を染るをはんの木染とて
萬葉集にも摺衣といふも是也 新撰字鏡
さて是より衣ハ摺るといふより今の世までいふ人の手あかれを
染ることハ古より山芋にて摺用ゐし事多き寄木にて
此榛をあり秋に萩を又萩も摺とあれば人まどひ
まて萩の花の摺を又白菅の榛摺とよめるハ萩にハ

あらぬを古くより萩といふと思へりけるに萬葉集にも
多く 此をよし例へ萬葉集にも榛と書けり 芽子と云
なれば後人ハ萩の説をなさずれど榛なる説も多くあり 宴
ありて今まハ萩とよめるにて又榛とかきて又萩とよめる
よく見する所の摺衣をなしり 古への摺衣ハまは木の色をもて
別に色を以て摺りしとみえ 榛の木の皮をもてハ
直にハ摺らず 煮汁にて摺りしなるべしと思はるれハ今
かし後の書に見えたる事とともに其に泥もへつれ
宣長云「古事記傳四十二ノ三十二丁ニアル全文」云ず ……萩といふハ萩の事
あの頃とはいふハ波理の事 是まぎらはし され萩のこと
あるをあるにも二種ありて 此の字 榛といふハ萩の事
まで榛と萩 ……契沖說を論

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

礦(ヤマ)
穿(ホル)
砿(アナ)
破(ヤブル)

(八三)

鑿 和十九ノ九ー

續 和廿ノ十七ー

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

ちどく 四加賀 四土
ちーらもる 四左下ニ点 四点
ちどもる 四ちりる
ちーくもる 四ちりる
ちどもる 四ちりる

断 和三ノ三
榛子 和七ノ四
鶏 和十八ノ毒
鰻鱺魚 和十九ノ三
柱 和十ノ毒
欄額 和十ノ毒
塔 和十ノ十三
和十ノ十八
葱葟 和十ノ十八
滋姫 和十ノ二
当葉葵 典葉式 タカハシカミ うしかみ ヒヨメリ

国 夫木七 能宣朝臣 かへつきを
あきてこそうらめ さるはあふことのかたきをちーくもるをちーのこそるは
ちーのあるくうゆるのろくをきそよあることそ

再 簸中あもる あへまも
ちどもるようくられもそそめも
みちるん

同 改 重保 ちどもるやうやちそのめよりもとよむとさそんうそ 堀川左大
ちどもるめる

国 嫩 ちーくもるそこのそーこちるそ
あーくもるあるそさくちきのそーこちるそくるん

辛夷 和三ノ十九
蜀椒 和三ノ十九
乾薑 和三ノ十九
生薑 和三ノ十九
蓼葉 典葉式
蓼椒 和七ノ十七
山葉葵 典葉式
蓼椒 典葉式

[illegible]

[illegible]

[illegible]

箋 和㕝十三

はしたなみ 枕 下ノ十二

はしたなし 源桐壺 いとはしたなきことおほかれと 徐拝 身のさまとしれハはしたなき みゆへし

箋ハヒをはしたなきれのさまる

槻 下十オ そこらはしたなきときとある人はいらへきこえるいなるを 俗ハシタナイト云語よ

蜻蛉 都をはしのさいあるおこのおもてを 大方ハ徐見 へ君りて 萬代のおかえあれハこころこちの

ふきこそり

前 古今和歌 人まあんりのきよにおはしたえむはしたなりけるわざなり

西陽雑俎 巻三 寺 國初僧玄奘往五天取經 西域敬之 成式見倭国僧金剛三昧 言嘗至中天寺 中多畫玄奘麻屩及匙筯 以綵雲乗之 蓋西域所無者 毎至齋日 輙膜拜焉

ハシヲヌキ三ノ四十可見合

○はしかみ はしかみ はしかみ はしかみ 作[illegible]

袖中抄 二

○はしたなきあらそひて [illegible] ○ゑみさいこすり

袖中抄 九

はしたなく [illegible]

○書足山の三[illegible]

ハシリデ 走出 五ノ卅六 萬葉

ハシ 箸 後古今 頃六ノ十二 万葉二ノ八十六	箸ノ箸形 類新 下廿七 [illegible]	箸 [illegible] スナウ 數撥 下十四アリ	箸字 書 後六	箸 [illegible] 下十四アリ
御箸 竹 長一五	橋柱之題 セシテ [illegible] 司馬相如ガ [illegible]			
ハシラ 柱 住 百三 触五九 今三百三	橋ヲ過ジト誓フ 廬山記 三笑図ノ			

柱ニ ニウメル 使 藺相如ノ故事 続世継 巻五ノ十八ミヌの柱ノ条

ハジカミ 生薑 酒	椒などをはじかみの むら		
櫨 白 鑞 彩色 四	日名十三丁 一六		
端 白 灌 彩色 四	同上		
櫨	衣鉢 百毛ノ廿一 表赤毛 裏黄 若毛七 [illegible] 少人モ 又 十七八 全	着し 秋赤冬 [illegible]	

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

ハシノシタメノヒヤウブハサイメカサカヌイテメサキソロハヌ　左下ニ
ハシノシタメノシヤウブハメカウヨタンゴヨンく　狂言記

半蔀　物狂群　順十八　四

夕雪お月・うさとに
いとてうくるろく
ろくれん
ハシメキ・センスヘキを
轉シテハヒシカヒヨリワ
にしキそこいやしし
クテアリトあンかし

第蔓　貞七ノ八　類語下十四ノ一
第初祝　貞下ノ三四
第さり　貞二ノ四三
第先一寸　貞二ノ四三
栀　上二ノ一
走り　貞三ノ七
走宛　貞四ノ七　走宛ちゑ　類四ノ十
ハシバシ　舳百ニ　板ノ面ニノ段板ノ図
はし鷹　貞三ノ九
階隠　貞四ノ九
階隠間　貞四ノ九
橋ノ男　柱　舳三七
ハシメキトヲ詞ヨ雨ナシ
馬上ニテ弓張事　今一四五
馬上ノ物　貞三ノ八
馬上器ノ図　貞十ノ三九

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ハシノシタノモヤウブハサイイカサカヌヘタサキソロハス広丁　座敷ヘアヒサウ

ハシノシタノシヤウブハタカウエタソボウヨソく　狂言記

箸臺　頁七ノ八　類雑下十四アリ

箸初祝　頁一下ノ三四

箸ナヲリ　頁六ノ四六

箸先一寸　頁六ノ

梔　上一ノ三一

走り　馬三　頁十三ノ二七

走衆　頁四ノ三

ハシバミ　細四三

はし鷹　頁十五ノ九

階隠　闇　頁十四ノ九

橋男　構　触三七

ハシタナキ言詞　内三十三

馬上ニテ弓張事　今一ノ四五

馬上三物　頁十三ノ廿八

馬上沓ノ図　頁十ノ三九

羊蹄　物類称呼四ノ十八

箸著　無張目之袍事

階かくし　風華ヲ東面ニカキスエテ左ノワキヨリ乗ル下リアランタメニ

羊蹄　川渡　列女伝一ノ首

柱餅　中廿九

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

馬上ニテ弓持傘ヲサス 漫一五四

馬上ノ働ニ鞍ヲ敷様 負十二ノ五六

馬上作物 負十二ノ五五

馬術 直鞍流 神当流 近授流 漫六二又六三 小百十

馬術傳來 小百十 漫六二

[illegible]

梔ノ木 弓材 黄櫨ハ弓材ナラス 梔ハ弓材ナラス 黄櫨ハ弓材 梔ノ本訓ハクチナシナリ

[illegible]

半色 經緯トモニ(茜紫)ニテ染ニ 半色薄紫なり 雜爾…五三

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

始ハジメ 初ハジメ 元ハジメ 首ハジメ 端ハシ 鬢ヒンノハシ 奔ハシル 走ハシル 弾ハジク 指 彈ハジク 燁ハジヤク 焙ハシヤカス 漢火 橋ハシノヘリ 澀 鵧

走リハシリ 行ハシリ 域ハシリ 株 佩 見 ハシタナシ 傑ハシタナシ 芭 苛 鑄ハジケル 發 標 包 ハシルニムチ 馬策 廚 繰子 ー ー 有 策 遠道可致

奔ハシル 閔子 古奔字 犬犬 標 馬馬 奔 趨 起 颿 馬 艉 舟

[illegible]

虎渓をこえしとはいふ人のうへ

谷の橋をこえしの[illegible]あれハあをゐをちと見るらん

右三玉集 [illegible]

廬山記云、遠法師居廬阜三十餘年、影不出山、跡不入俗、送客過虎渓、虎輒鳴號、昔陶元亮居栗里山南、陸脩静亦有道之士、遠師嘗送此二人、與語道合、不覚過之、因相与大笑、今世傳三笑圖云、

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ハヒ

はびこる 四方に広がる 蔓延 半木

ハビコル 蔓延

遠行 ハビキン 浸 蔓延

ハビコル 蔓延

ハヒ 灰オホシ 貞八ノ三

はびろ 千八貞六ノ四

灰燼 ハヒクワイ 世間ニ云ヒ出シタモノニテハブリ

蔓 ハビコル 草ニハノ白蔓ヲ延ス 内経ニ 波ハ大 日把半

ハビキ 遠ク行ク事 新撰字鏡

ハノ

灰方 片麻ニ

ハヒ

はびこる 四方に広がる 蔓延 半木

ハビコル 蔓延

遠行 ハビキン 浸 蔓延

ハビコル 蔓延

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

（ハモ）

ものの部

大和物語上巻十 琵琶行（伴平）

をうせてかなうつみてもりうる所有をいつつはふるそうしものをしる事

日本紀をこせる 所あり 柏木よ 若菜

若菜の部の巻あるもの

破門（はもん）

若菜（わかな） 巻二七九ウ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

枇杷殿平中すきものの條附第二

葉もその物のごの

柏もて參るの參もて參るの物のごとくそ

右柚中將顯忠參るの物とりて柏

家の中に參る參通意

柏もて參るの物の

宮の御ちりで

うばひ取れ

右參使ひて參る物をそ

仁式の三條柏のごとくそ參うこと

顯忠朝臣參るの使ひの柏の

基俊は參るの物を柏

さしものごとや俊基に

參も柏本を

仁式をそ

參通意に

參る物をそ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

後拾遺集雑二
枇杷左大臣忠平公よう作りて
はかなくもかけまくもかしこき……
ちよの……をすゑの作り
けれハちかつかあかり いそうもて……ち?……
て作りる家子 ……あるしの……
そうまつり
けれハ 後子 ……
あやとらつうし ……
てうちよのもを ……
あらしら月三ハ ……
そうりおと云る ……
うてし世花谷 咲もあれ ……
ちよのハの……の作の
かけるをしりてを 八千代ふ……
あそりしハへあさきる

はなの枝 ……
かりある……
の御ハあさきを 梅木の……
人ちのをつきやと
の情り 連歌……

（ハセ）
櫨 ハリセ 和三ノ八丁
芭蕉 ハセヲハ 和七ノ十五丁
艇 ハセん 船 馳 ハセ 馬 爆 ハゼん 火炭ノハシル也 そこ
騖 ハセん 驚 ハセ 馳 ハセ 騙 ハセ
馳向 ハセムカフ ノ年 ハセテアル ノ来 ハセキタル
膂控 ハセヒキ 毛詩注 馳馬曰驟 止馬曰控
破船 ハセン
駈向 ハセムカフ
馳集 ハセアツマル ノ向 ハセん ノ寄 ハセよん
ハゼ 長二八に 糯米ノ炒テ白リハゼカヘリタルヲ云
ハゼ 俗 ……ト云 春草
芭蕉翁ノ……傳 ……鈔 小永井……大作 国文学廿二ノ六一
長谷部 長谷衛 ……
芭蕉傳 ……氏 国文学廿五ノ六一
長谷雄草紙 ……ノ……
長谷川……山傳 ……十二ノ廿一

馬鐙　武州ニノサシ

ハズ
ハズカヅラ　五十ノ十六
ハズ巻　五十ノ二四
ハズカイ　五十ノ三四

陳ラ　法ノ部ニ出ヅ

競馬篇仕候　後中廿九

警　後中廿五　紀中名所ちさニノ三七　内扇指

ハズ
人薩芳　五十ノ十六

ハ

ちさ二四左下ヨ

ちさ　ちいの

圖　夏撫　発作ヘ文のうつおきのちさうの風のちさ　ちさのうち　ハちやおと

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

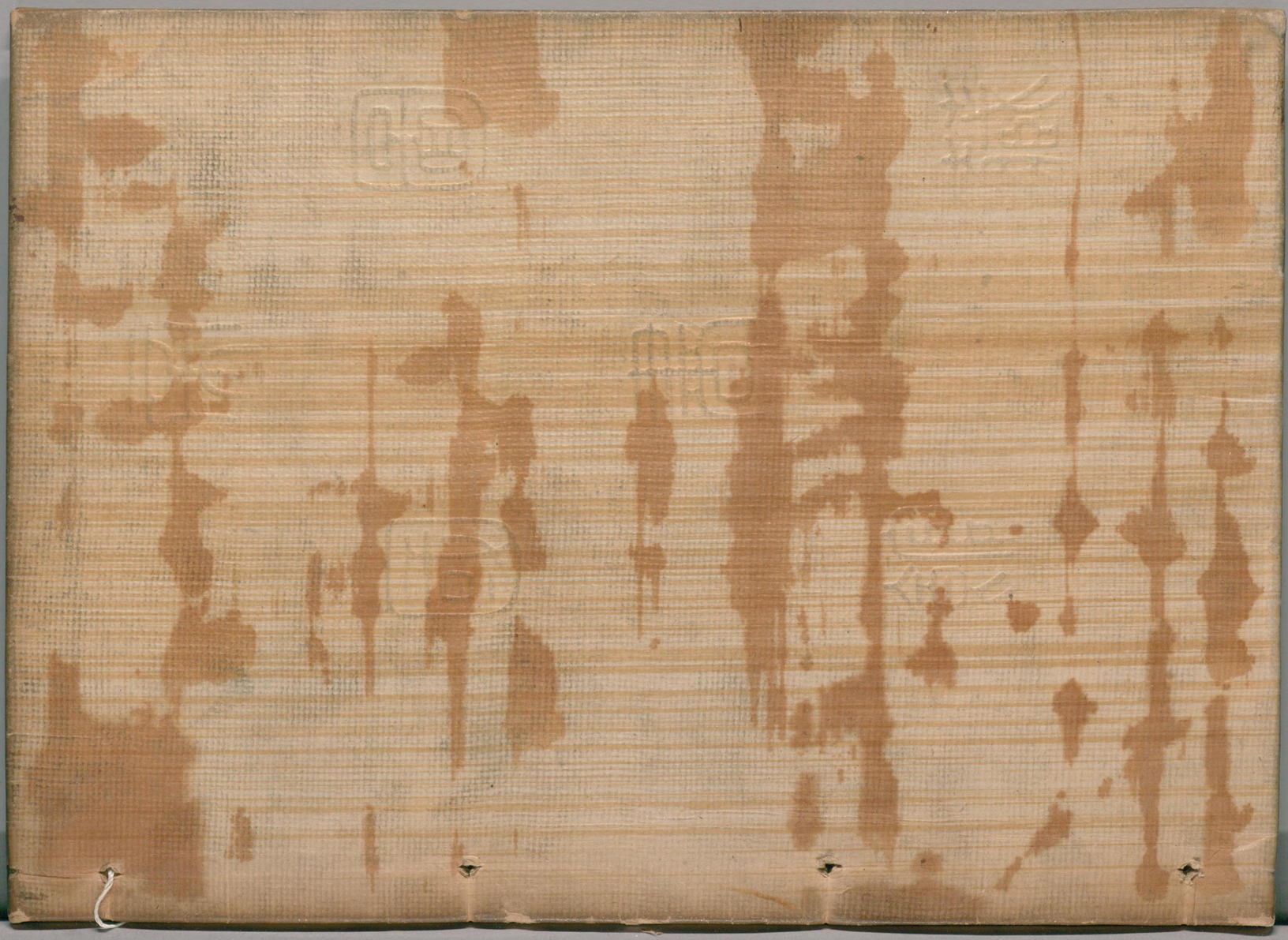
国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

831
60
13

国立国会図書館　　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『語箋』請求記号 831-13